課題番号３

岩見沢市４Ｈクラブの活動支援

～　プロジェクト活動を中心とした４Ｈクラブの活性化　～

対象：岩見沢市４Ｈクラブ（24名）

１　活動の背景

岩見沢市４Ｈクラブは、プロジェクト活動や学習会を通じて、農業に関する知識や技術の習得、仲間作りを目的とした青年農業者グループである。近年は会員の入れ替わりで、プロジェクト活動を行ったことのない会員が増えたため、活動は学習会を主体としたものとなっている。

Ｒ４年度よりプロジェクト活動の充実度に関するアンケート調査を実施し、今年は４回目である。年々充実した活動ができたと感じる会員が増えている中で、プロジェクトに参加する人数が少ないといった課題もある。アンケート調査を通じて問題点を確認し、充実したクラブ活動となるよう支援を行う。

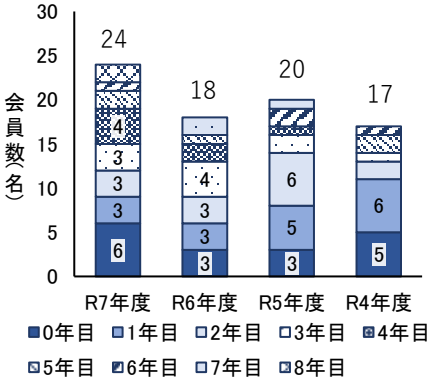

図１　岩見沢市4Hクラブの会員数の推移

「プロジェクト活動の充実度」過去年のアンケート結果

項　目	内　容（抜粋）	R6平均	R5平均	R4平均
選定	・プロジェクトの選定理由や目標を理解できているか ・実態把握を十分に行い、地域の現状や問題点を整理できたか	2.7	3.3	3.2
計画	・現状をよく調べて計画を立てたか（視察や学習会などの事前学習を行ったか） ・計画を立てる参考資料を十分に利用したか（プロジェクト活動のやり方への理解）	2.8	2.9	2.7
実施	・計画にしたがって時期遅れなく実施できたか ・調査など活動に責任を持ち取り組んだか	2.6	3.0	2.4
結果･反省	・問題解決の手順や考え方を理解したか ・生育・収量などの調査方法を理解できたか	2.7	3.0	2.8
記録	・記録は正確につけたか ・写真等を用いて、綺麗に見やすく記録したか	2.3	2.8	2.5
発表	・プロジェクトの発表・補助等（資料作成等）を行ったか（農業者会議、研修会等） ・発表により聞き手と意見交換できたか、助言をもらえたか	2.4	2.7	2.3

※評価基準（５段階）　5：極めて十分に達成　4：十分に達成　3：おおむね達成　2：やや達成できなかった　1:達成できなかった

２　活動の経過

表１　岩見沢市４Ｈクラブ活動内容

活動内容	回数	参加率（%）
定例会	2	64
学習会（農作業安全講習、緑肥の基礎、今後の活動へ向けたグループワーク等）	4（予定）	67
視察研修（先進農家視察）	2	67
プロジェクト活動支援 空知産にんにくのブランド化 後作緑肥による大豆減肥試験 大豆事例調査	 2 8（予定） 6（予定）	 100（対象1名） 100（対象1名） 100（対象5名）

○プロジェクトの活動支援

4月に年間スケジュールを立て、計画に沿ってにんにくの先進農家視察や大豆の生育･収量調査を実施した。結果は今後対象者と振り返りを行う。

○学習会や視察研修開催支援

役員に対して、開催に関わる運営方法の助言を行った。

写真１　学習会（緑肥の基礎）

写真２　視察研修（美瑛町）

写真３　視察研修（岩見沢市）

３　成果の具体的内容

推進事項：プロジェクト活動の充実（R5～R7）
アンケートの到達度５点中3.5点以上達成会員割合　現況12% → 目標60% → 結果8%

（１）アンケート結果について

・Ｒ７年の到達度５点中3.5点以上達成会員は２名であり、目標には達しなかった(表１)。
　目標未達の理由　①プロジェクトの参加人数が全体の３割と少なかった
　　②新規会員が増え、プロジェクト活動への理解が少ない会員が増えた
・アンケート初年度と比較すると、12名中７名の点数が上がっており、当初から居る会員の充実度は上がったと考えられる(表1)。
・項目別の年次比較では、実施以外の項目でR4年を下回った(図1)。理由として、現地調査のみに参加する会員が多く、PDCAサイクルに沿った活動ができなかった。

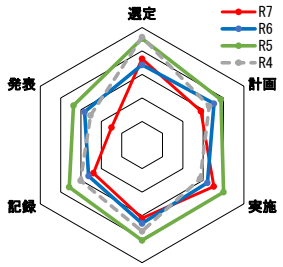

図１　項目別の年次比較

表１　会員別アンケート結果　　：3.5点以上

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	会員数	達成割合
R7	3.8	3.5	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	1.4	1.0	1.0	24	8%
R6	3.9	3.4	3.0	3.3	1.0	2.0	4.5	2.1	3.0	－	3.0	－	2.9	2.0	3.1	－	－	2.0	1.3	3.0	－	－	1.0	－	17	12%
R5	3.4	4.0	3.2	3.4	－	－	3.0	2.5	3.0	－	3.0	－	3.8	4.8	3.3	－	－	2.0	1.0	2.5	－	－	－	－	19	21%
R4	2.8	3.2	2.9	3.0	－	－	3.0	2.5	－	－	－	－	3.5	3.2	3.4	－	－	1.0	1.3	3.0	－	－	－	－	17	6%

【 まとめ 】
　点数には表れなかったものの、学習会は頻繁に実施し、視察研修への出席率も高かった。
以上のことから積極的に情報収集や会員同士の交流(写真４)を会全体で行っており、充実した活動ができ、クラブ活動の活性化が図られたと考える。

写真４　交流会の様子

（２）Ｒ７年度 プロジェクト活動の成果

・空知産にんにくのブランド化に向けた活動では、大型収穫機を導入している先進農家視察を行った。「ブランド化に向けた活動は１年目のため来年度も引き続き管内で仲間づくりを行っていきたい」との声が上がった。
・後作緑肥による大豆減肥試験では、緑肥の目標とした乾物量を確保できたため、大豆の基肥を農家慣行より減肥して試験を実施した。緑肥による大豆の減肥試験は今後も続けていきたい意向を示した。
・大豆栽培事例調査では、５名が大豆の生育調査を通じて生育期節の確認や根粒菌の着生状況を調査した。調査結果を確認し合うことで、課題を整理できた。
・クラブ活動活性化に向けたグループワークでは、「会員の仲を深め、知るためにも会員同士の農場を回って情報交換の場を作りたい」との要望が出たこともあり、来年度から全員が関われるようなプロジェクト活動を実施していくこととなった。

写真５ にんにく先進農家視察

写真６ 大豆生育調査(6/11)

写真７今後の活動についてのGW

４　今後の課題と対応

　達成会員割合は目標に達しなかったが、プロジェクト活動以外でクラブ活動の活性化が図られたため、本課題は今年度で終了する。今後は個々の活動の充実度向上や、会員同士の交流を深めていきたい意向があるため、通常業務で支援を続ける。

【作成者　空知農業改良普及センター本所　地域第１係　普及指導員　小玉 紗英】